

P T Aの歩み

洛陽P T Aのあゆみに感謝

京都市立洛陽工業高等学校

副校長 大 窪 英 行

洛陽高P T Aは昭和24年9月に発足しました。当時、学校には京一工時代の「父兄会」（昭和5年12月発足、発足当初は京一工父兄団）と旧二中（現鳥羽高校、新制高校再編の小学区制度導入に伴い旧二中の一部の生徒が洛陽へ転籍）で漸く発足した「P T A」がありました。昭和24年6月父兄会の総会が開かれ、洛陽高「P T A」として一本化されることとなったようです。

ただちに規約案づくりが進められましたが、当時は進駐軍がいて、すべてのことに相当指示があったようです。根幹となる部分は市内の公立高校がある程度共通なものを作って、各校でアレンジし、3ヶ月をかけ規約原案は完成しました。新学期から正式にP T Aが発足することになり、9月に第1回総会が開催され、P T Aは結成されたと記録に残っています。

発足当初は任意加入でP T Aの認識も十分でなかったため、会員数は極めて少数でした。P T Aは新学制の理解・男女共学の認識・青少年不良化の問題などに取り組みながら、保護者への理解を促進、認識を深めようと努められたようです。毎月総会を開くなど会員数増加の働きかけにより、昭和25年には在籍生徒の40%の保護者が加入、3年目になってP T Aの基礎が固まって



P T A機関紙「洛陽」創刊号とP T A「十年誌」

きたようです。昭和28年には、「入学式後にPTA役員が各教室へ説明にまわって、全員入会となった。」と『PTA十年誌』（昭和34年12月19日発行）の回顧録に記されています。

その後も、「本会は会員が融合協力して学校・家庭及び地域社会の教育環境を改善し会員相互の教養の向上をはかり以て生徒の福祉を増進することを目的とする（規約第三条）」の実現に努力するため、その時々の方々の動きを勘案しながら講演会や懇談会、各種研修会を開催するなどPTA活動を充実させてきました。十年誌には「発足以来積み重ねてきた役員会、委員会の和気あいあいの雰囲気」「役員会・委員会でのなごやかさは家庭的雰囲気」との記述があり、それが「PTAの基礎は磐石のものとなり、総会毎に会員の熱意が高まって来た」につながったのだと思います。これは歴代のPTAにも受け継がれており、役員会や研修会での会員相互の交流に和気あいあいさを感じることができます。

教育環境の改善に関しては、京都市への要望のみならず、昭和39年の体育館建設資金募金や昭和45年のプール建設募金、昭和55年の講堂改修に伴う備品整備等の主体となるなど、生徒が快適に学習できるよう環境整備に尽力されてきました。近年においても毎年PTAから京都市への要望は継続しつつ、生徒が快適に学校生活が過ごせるよう環境整備を続けています。

前後しますが、昭和38年の洛陽工業高校への校名改称に伴い、PTAも現「洛陽工業高校PTA」へと改称しています。工業単独の専門高校化は、通学区域が他の普通科高校と異なり、非常に広い地域にわたっているという事情もあり、学校や保護者同士の連絡が必ずしも十分ではない状況を招きました。PTA企画委員会等で取り上げた数々の事柄を報告し、PTAはもとより、学校と保護者間の連絡を密にするため、PTA機関紙『洛陽』が発刊（創刊号はB5判8ページで昭和44年7月15日発行）されることになりました。以来、毎年発刊を重ね、最終号（平成30年3月3日発行）まで102号を数えます。創刊以来、PTAの活動報告や学校の様子など学校と家庭をつなぐ多くの情報を伝えてきました。



昭和30年 PTA体育祭売店



昭和26年 PTA研修会「保津川下り」



平成26年 P T A壁新聞「京都市長賞」

また、昭和56年からは、情報伝達ツールとしていち早くテレホンサービスを導入、当初4名のP T A役員で順次吹込みを担当し、月2回の更新で広報活動に取り組まれています。現在はその役割を終え、学校の様子を知らせる方法を学校ホームページに譲ってはいますが、当時としては先進的な取り組みでありました。

外部への広報活動に関しては、今年度で20回目となる京都市P T Aフェスティバルに本校P T A活動を紹介する壁新聞を製作し、毎年出展しています。洛陽P T Aの壁新聞は、高い評価を得ており、平成26年の「京都市長賞」をはじめ、近年では平成28年の「京都市立高等学校P T A連絡協議会会長賞」など、多くの賞を受賞しています。毎年、熱心に製作される姿には頭が下がる思いです。

携帯電話やインターネットがない時代から、学校の様子やP T A活動を会員にどう伝えるかを真剣に考え、機関誌「洛陽」についても創刊以来途絶えることなく発行を続けてこられた歴代のP T A役員の皆さまに敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

学校の閉校とともにP T Aもその役割を終えますが、創設以来続く本会の目的であった「教育環境改善・会員相互の教養向上・生徒福祉の増進」については、実現に向けた取り組みが続けてこられたのではないかと思います。

全会員の皆さまにご協力いただいていた旧校舎で実施してきたP T Aバザー。震災支援や生徒のために使用してきましたが、最後の卒業式にあたり、長年の収益金から卒業生全員にコースージュを贈呈させていただきました。長らくのP T A活動、本当にありがとうございました。

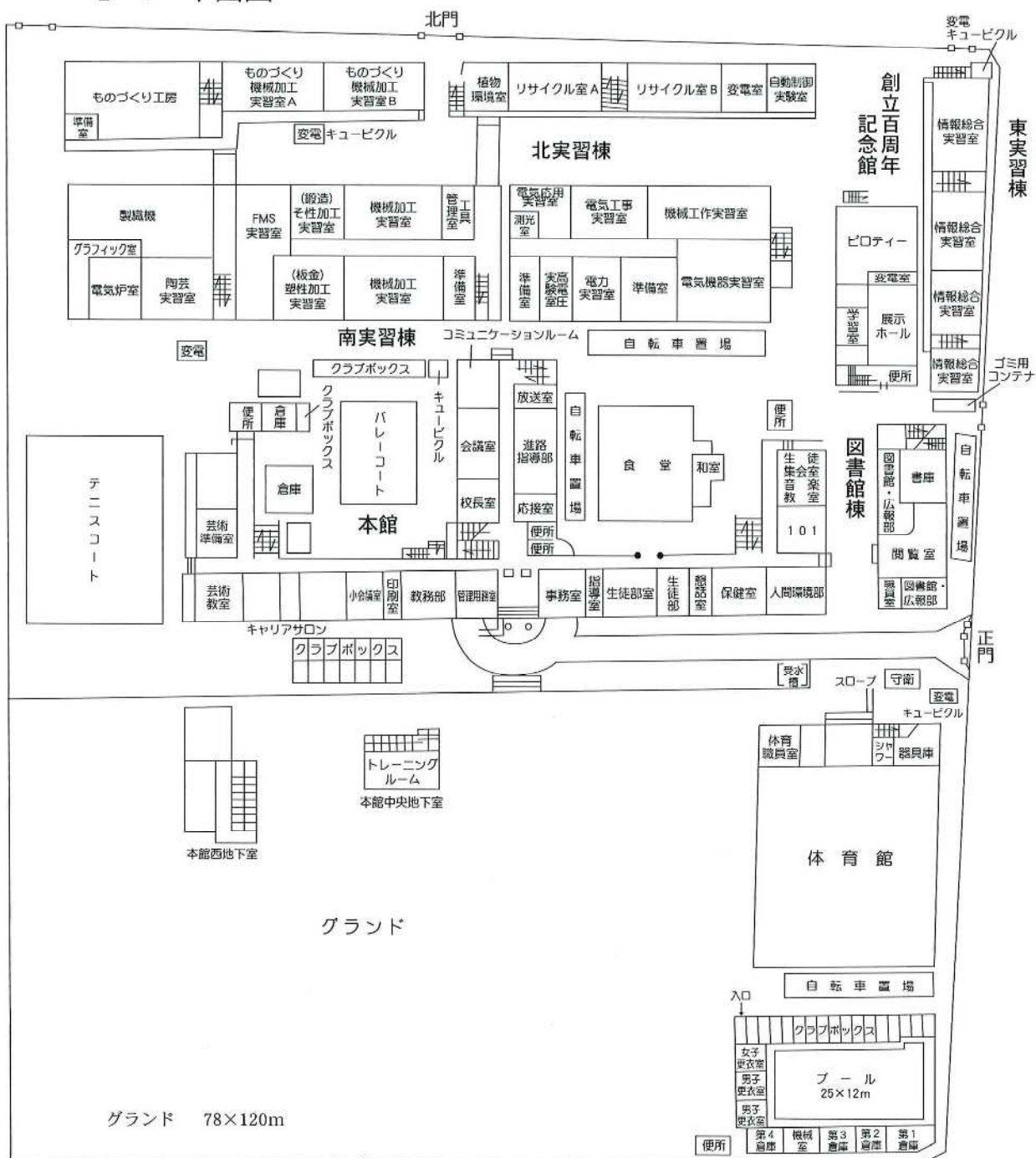
(役職は平成29年度当時のものです)

唐橋校舎の配置および各階平面図

1F 平面図

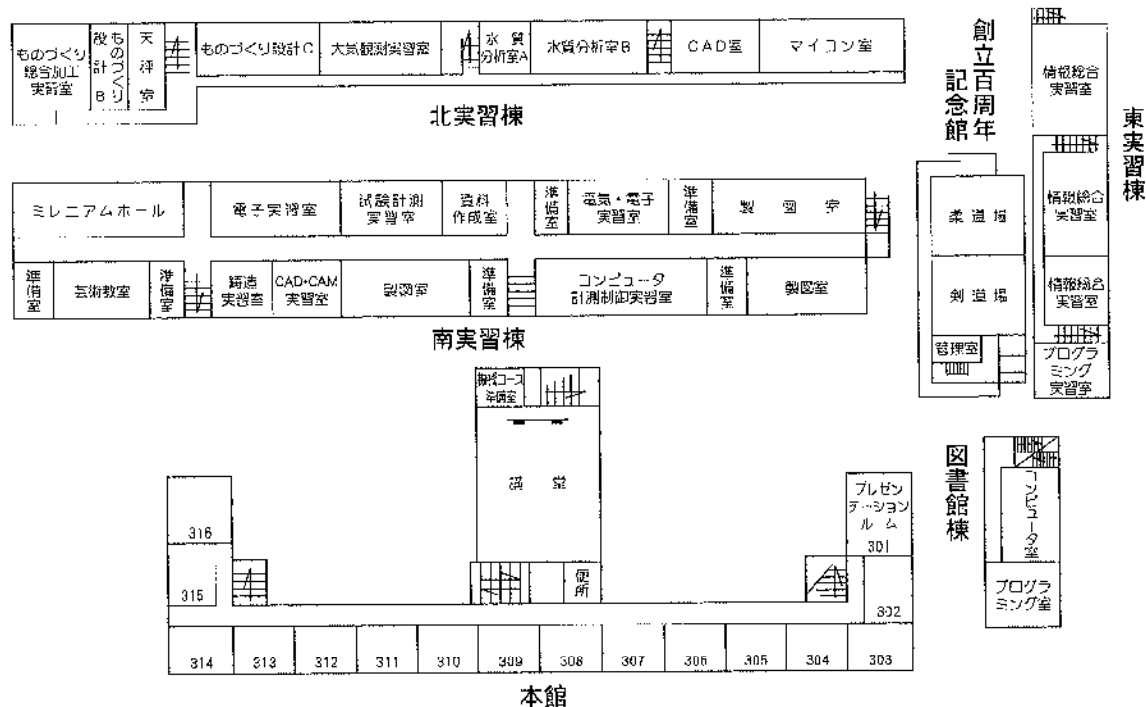
〒601-8467

京都市南区唐橋大宮尻町22番地

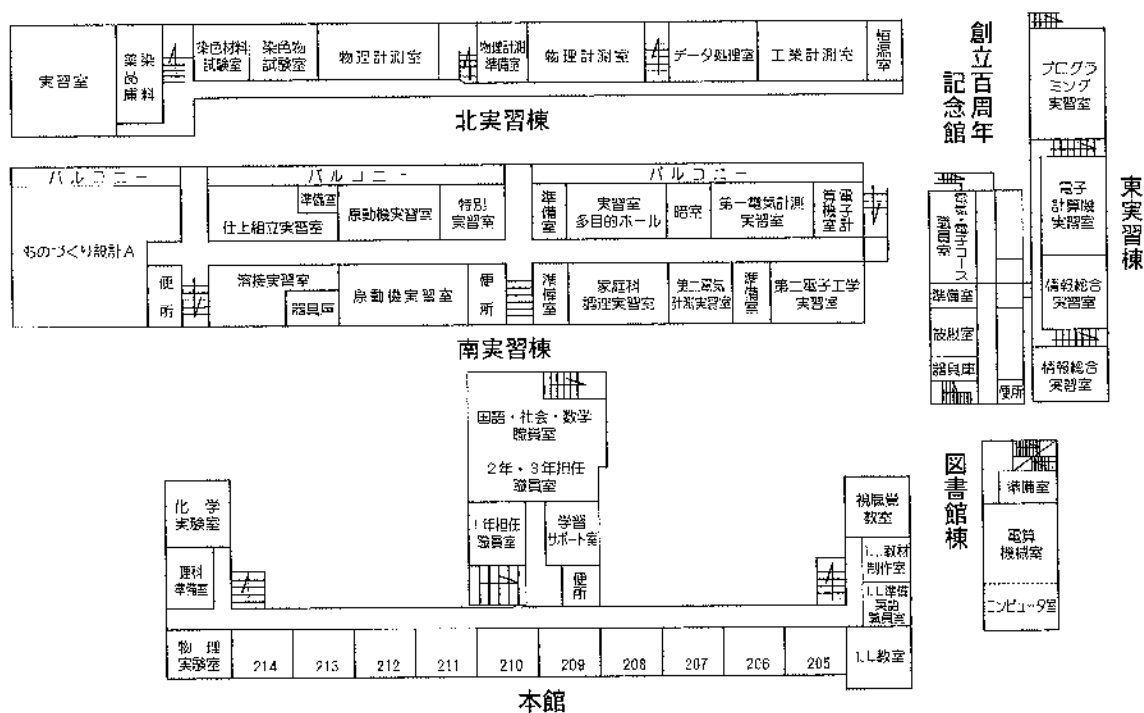


校地面積 32,763 m²

3F 平面図



2F 平面図

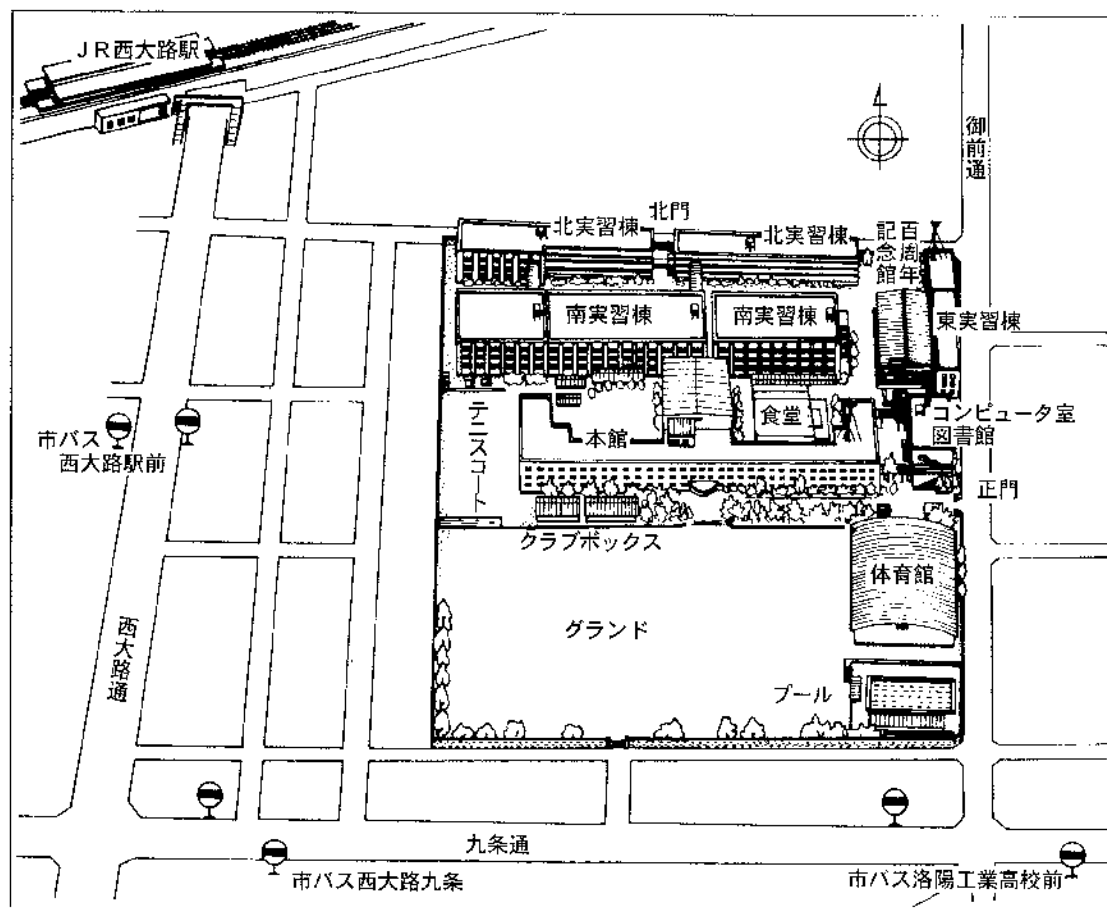
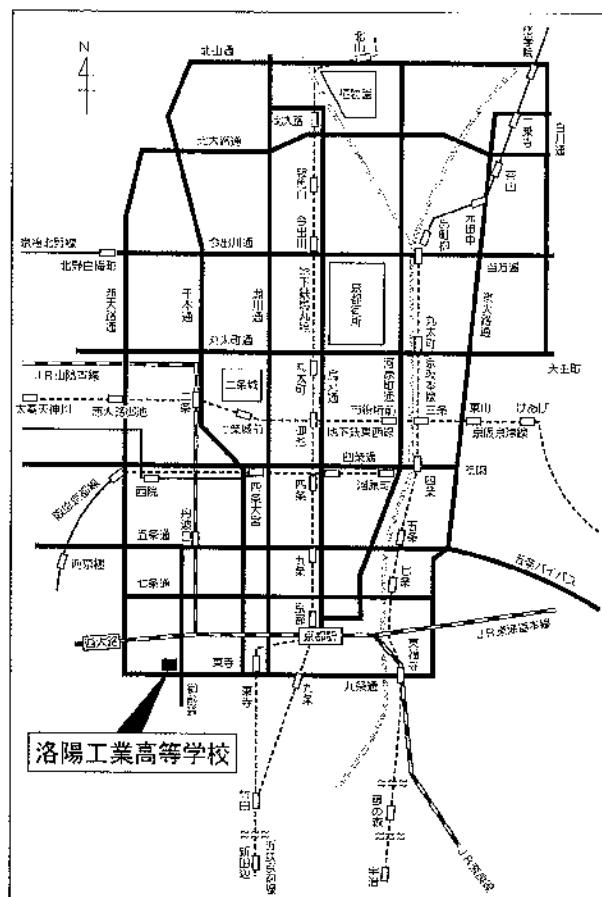


■交通機関

市バス 洛陽工業高校前 北50m
系統 202、208、16、78

市バス 西大路駅前 東250m
系統 202、208、13、特13、43

J R 西大路駅 東250m



深草校舎配置図 および主施設概要

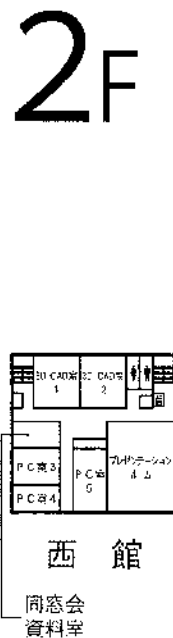
〒612-0884

京都市伏見区深草西出山町23番地

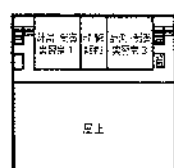


敷地面積	67,574 m ²	〈主な実習施設〉	
校舎	建築面積	10,235 m ²	プロジェクトラボ 262 m ²
	延床面積	23,586 m ²	テクニカルステーション 850 m ²
〈主な体育施設〉		製図室 1 256 m ²	
	アリーナ武道場 1,425 m ²	製図室 2 141 m ²	
	トレーニングルーム 396 m ²	製図室 3 69 m ²	
	第1グラウンド人工芝 375 m ²	ものづくり工作室 128 m ²	
	第2グラウンド野球場 8,000 m ²	ものづくり実習室 1 128 m ²	
	テニスコート 13,000 m ²	ものづくり実習室 2 130 m ²	
	1,800 m ²	造形計画実習室 201 m ²	
		環境デザイン実習室 234 m ²	
		空間情報シミュレーション室 134 m ²	
		その他	
		〈図書施設〉	
		蔵書数 約1万3千冊 (開架書庫のみ)	
		開架書庫・閲覧室	391 m ²
		閉架書庫	23 m ²
		司書室	22 m ²
		固定式閲覧席 10机	40 座席
		可動式閲覧席 10机	40 座席
		壁面設置型閲覧席	10 座席

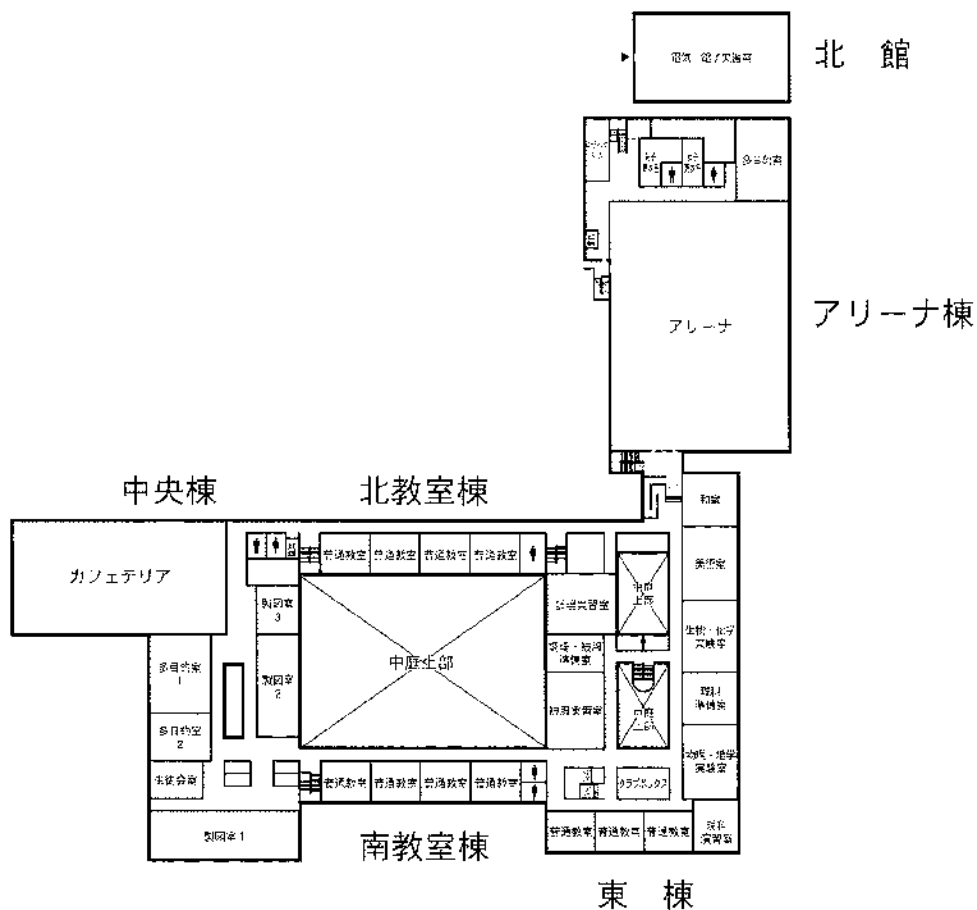
1 F



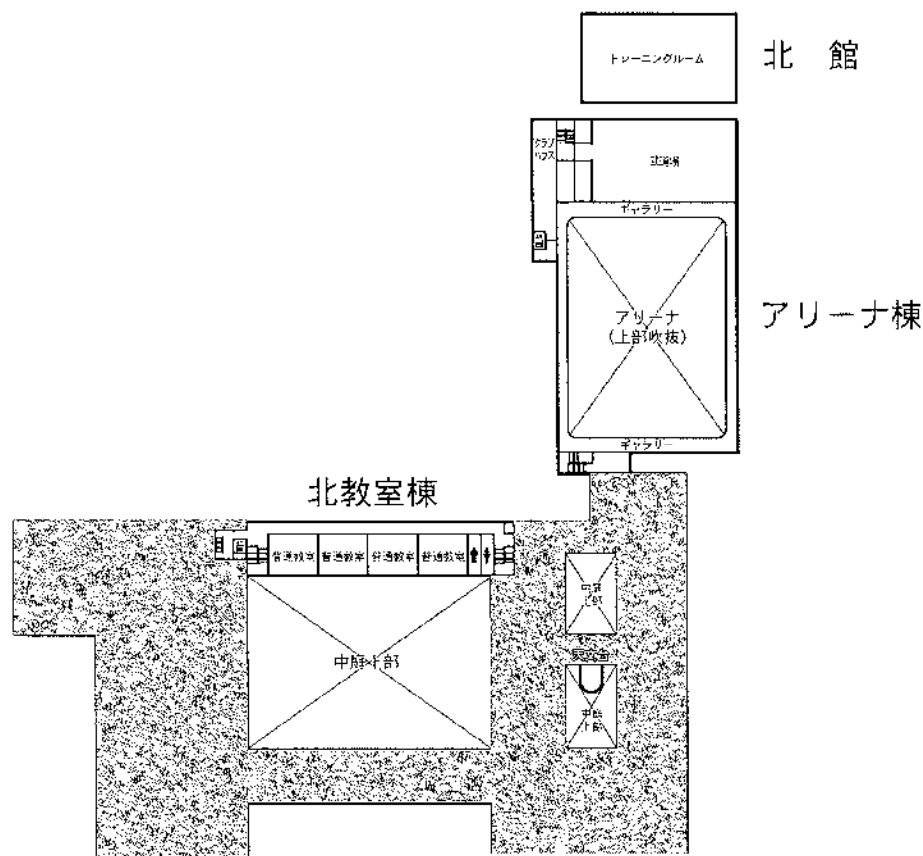
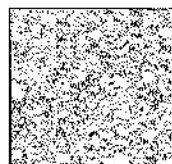
3F



西 館



4F



編集後記

平成30年に最後の生徒を送り出し、132年の歴史に幕を降ろした京都市立洛陽工業高等学校の閉校記念誌を発刊できますことを心より嬉しく思う次第であります。

明治19年京都染工講習所として創立以来、2万8千名あまりの卒業生を輩出し、日本の工業発展に寄与した洛陽工業高等学校の足跡を後世に残したいと思い記念誌を作成いたしました。

記念誌作成には、百周年記念に発刊された「洛陽工高百年史」を参考にしながら、継続性を持たせるように編集作業を行いました。歴代の校長先生、洛陽京工会会頭様、PTA会長様や卒業生の方々にご執筆をいただき、100周年以降の出来事を写真で振り返ることができるようにいたしました。作業を進める中で編集委員は、132年間の歴史の意義の大きさを改めて痛感しております。

最後になりましたが、この閉校記念誌を発刊するにあたり、お忙しい中、原稿をお寄せいただきました皆様方、関係者の皆様方に多大なるご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。これまで洛陽工業高等学校に温かいご支援をいただきましたことに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

京都市立洛陽工業高等学校
閉校記念誌編集委員会

京都市立洛陽工業高等学校 閉校記念誌

発行 平成30年10月
京都市教育委員会指導部学校指導課

編集 京都市立洛陽工業高等学校
閉校記念誌編集委員会

印刷 株式会社 大気堂